



様々な芸術・文化に  
触れる体験

# 伝統文化「民謡」を体感しよう！

中学校

荒川区立原中学校



笑顔と学びの体験活動  
プロジェクト

## 概要

開校30周年の節目に、本校の運動会のメイン種目でもある「原中ソーラン」にて、「南中ソーラン」の唄い手である伊藤 多喜雄さんをお招きし、全校生徒が講師の生歌、津軽三味線による生演奏で踊る経験を通して、日本の伝統文化のよさを実感した。

育成を目指す  
資質・能力

- ・学校や学校行事に誇りをもち、主体的に取り組む態度を養う
- ・日本の伝統文化への理解を深める

## 年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月	
各教科等	授業：体育 リーダーを中心に練習	体験① 講演会を通して、ソーラン節について学ぶ  体験② 歌に合わせて練習し、運動会に向け、主体性を高める		授業：学活  体験の振り返り				授業：国語 各地の民謡について学ぶ		体験③ TAKiOBANDの演奏を通して、日本の伝統文化を学ぶ	

## 体験① 概要

### 伊藤 多喜雄さんによる講演会

- ソーラン節についての講話  
漁をするとき、舟の上で歌う労働歌であったソーラン節と民謡について、民謡の素晴らしさを伝えたいという思いや自身の考え方を津軽三味線の演奏とともに、お話いただいた。
- 伊藤 多喜雄さんと生徒が共演  
講師の歌唱と津軽三味線の演奏に合わせて原中ソーランを踊ることを通して、本校の伝統の一つである「原中ソーラン」をこれまで以上に大切にしていこう気持ちを高めた。

## 体験② 概要

### 運動会 原中ソーラン スローガン「多喜雄さんと完全燃焼」

- 原中ソーランで生徒と共演  
伊藤 多喜雄さんの歌唱と山中裕史さんによる津軽三味線の演奏に合わせて、全校生徒が原中ソーランを踊った。「多喜雄さんと完全燃焼」のスローガンの下、主体的に練習に取り組んだ成果を発表し、達成感を味わった。講師が来校し、念入りの音のチェックとリハーサルを行う様子を参観しプロとしての姿勢を学んだ。

## 体験③ 概要

### 伊藤 多喜雄&TAKiOBAND 「これが南中ソーランだ」

- 伊藤 多喜雄さんの講話  
民謡のルーツ、ロック調ソーランが生まれた経緯、民謡に対する考え方について学んだ。
- 伊藤 多喜雄&TAKiOBANDによるライブ  
・津軽三味線、尺八、ベースギター、ピアノ、ドラムによる民謡の鑑賞、生徒との即興演奏、校歌斉唱を行った。
- ・TAKiOBANDの演奏に合わせて全校生徒が「原中ソーラン」を踊った。

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

(前年度) 11月 出演交渉等調整  
 (前年度) 2月 講師との打合せ・下見  
 4月 周年行事の立案・役割分担  
 「原中ソーラン」の事前指導



【生徒】

(前年度) 2月 ソーランリーダーの募集  
 オーディション  
 (前年度) 3月 ソーランリーダーによる練習開始  
 春休み 練習用模範演技動画撮影・配信  
 4月 本プロジェクトについての説明  
 ソーラン節や民謡に関する事前学習の実施

事後振り返り

- ・伊藤 多喜雄さんとの共演を目標にしたことにより、運動会練習で生徒たちの主体性が高まった。
- ・開校30周年記念の取組の一つと考えていたが、次年度につながる取組にしていくことも考えていくことを検討する。

講師の生き方や、民謡に対する姿勢からも多くのことを学べる。何より、入念な準備と歌唱力からも本物の素晴らしさを感じ取ってほしい。



講師とスタッフの皆さんの津軽三味線が素晴らしかった。鳥肌がたつた。運動会に向けて頑張りたい。

取組・実践

## 伊藤 多喜雄さんによる講演会

5月13日（月）講師である伊藤 多喜雄さんによる提案で、運動会当日に向けた講演会が行われ、ソーラン節と民謡について学んだ。

運動会本番で講師と共演するために、事前に、ソーランリーダーによる練習やソーラン節や民謡に関する調べ学習、講師の活動に関して学習等を行った。

講演会当日は、講師からソーラン節と民謡について学ぶとともに、御本人による生歌唱と津軽三味線の演奏の素晴らしさを体感した。また、講師の民謡の労働歌としてのルーツを大切にしつつ、革新的な表現にチャレンジし続ける姿勢に触れた。

生徒からは、これまで運動会でソーラン節を全校で踊ってきた原中の伝統を誇らしく思い、運動会成功に向けて頑張りたいという感想が聞かれた。また、主体的に取り組む大切さと、仲間と協力して一つのを創り上げることの素晴らしさを学んだ生徒の姿が見られた。

講演会を通して、生徒は、運動会の目標を「多喜雄さんと完全燃焼」と掲げ、第3学年生徒を中心に、主体的に練習に取り組み、失敗を繰り返しながらも互いに話し合い、良いものを作っていこうとする意欲につながる学びがあった。



# 体験 2回目

計画・準備・事前学習



- (前年度) 11月 出演交渉等調整
- (前年度) 2月 講師との打合せ・下見
- 4月 周年行事の立案・役割分担  
「原中ソーラン」の事前指導

## 【学校・教員】



- (前年度) 2月 ソーランリーダーの募集  
オーディション
- (前年度) 3月 ソーランリーダーによる練習開始  
春休み 練習用模範演技動画撮影・配信
- 4月 本プロジェクトについての説明  
ソーラン節や民謡に関する事前  
学習の実施

## 【生徒】

- ・「多喜雄さんと完全燃焼」と目標を掲げ、主体的に練習に取り組んできた生徒たちは、講師との共演を通して、大きな達成感を味わうことができ、自信につながった。
- ・本プロジェクトによる成功体験が、本校の伝統の一つとして「原中ソーラン」を誇りに感じるとともに、今後も大切にしたいという気持ちをもつことができた。

事後・振り返り

校庭でも響き渡る伊藤 多喜雄さんの歌声と280名の生徒との一体感、存在感は素晴らしかった。第3学年が行事を通して成長したことを感じた。



講師とともに完全燃焼できた。スタッフも朝早くから準備してくれて感謝しかない。3年になったらソーランリーダーをやりたい。



取組・実践

## 運動会 原中ソーラン スローガン「多喜雄さんと完全燃焼」

### 運動会に向けて

- ソーランリーダー会議
  - ・役割分担
  - ・言葉決め
  - ・隊形決め
  - ・模範演技練習
- 運動会練習
  - ・グループでの教え合い
  - ・基本の踊り、基本隊形練習
  - ・ソーランリーダーの所信表明及び反省

### 運動会当日

- ソーランリーダーによる  
伊藤 多喜雄さんへの挨拶
- プログラムの実施  
全校生徒と講師による  
「原中ソーラン」の共演
- ・生歌による演舞披露
- 振り返り

### 運動会後

伊藤 多喜雄さん・スタッフの方へのお礼状の作成



# 体験 3回目

## 計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- 12月 演奏会依頼・打合せ
- 1月 スタッフによる下見
- 2月 当日に向けた打合せ・立案・修正
- 3月 最終打合せ・授業計画



【生徒】

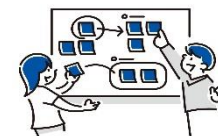
- 12月 1・2年による新リーダーの選出
- 1月 練習開始
- 3月 民謡の歴史や楽器、日本の伝統文化に関する事前学習の実施

## 振り返り・事後

- ・日本の伝統文化の一つである民謡を体感し、日本の伝統文化についての興味・関心を更に広げることができた。
- ・1年間の本プロジェクトを振り返って、生徒たちは、自分の成長を実感し、次年度に向けた新たな目標を立て、努力しようとする気持ちを高めることができた。

## 成果

- ・事前学習や講演会を通じてソーラン節の由来等について深く知ることによって、一つ一つの動きの意味を考え、踊りの中に「漁」の要素を取り入れることができるようになった。
- ・生徒が運動会に向け、主体的に考え、協力して取り組む力が高まった。
- ・講師の民謡に対する思いや生き方を学び、自分の生き方について考えたことにより、自分を成長させたいという意欲が高まった。
- ・生徒だけでなく、教職員も、講師のプロとしてのエンターテインメント性に触れ、相手の立場に立って物事を伝えること、生徒に本物を体験させることの大切さを学んだ。



## 取組・実践

### 伊藤多喜雄とTAKiOBANDの「これが南中ソーランだ」

- 伊藤 多喜雄さんの講話
  - ・民謡のスタイルや歴史、講師が目指す民謡と民謡を伝える活動について学ぶ。
  - ・津軽三味線と尺八の演奏を鑑賞する。
- 伊藤 多喜雄 & TAKiOBANDによるライブ
  - ・津軽三味線、尺八、ベースギター、ピアノ、ドラムによる民謡の鑑賞
  - ・生徒との即興演奏
  - ・原中生徒とコラボレーションした校歌
- 「原中ソーラン」共演
  - 伊藤 多喜雄 & TAKiOBANDの演奏による原中全生徒との共演
- 生徒からのお礼の言葉

